

中国（上海）ビジネスサポート

Monthly China News

*毎月1回、定期的に中国より配信致します。

上海も梅雨の季節となりました。上海ロックダウン封鎖解除予定の6月1日。直前まで本当に解除されるかと心配されていましたが、ごく一部の地域を除き全市で一気に解除。2か月強に及ぶ封鎖がようやく終わり、安堵と嬉しさが入り混じりながら家族や友人と街へ飛び出す姿が見られました。動きを見せ始めた上海より、6月のレポートをお届けします。

【政治・経済】

- ・第12回 BRICS 経済・貿易相会議が開催(6/9)。BRICS5カ国の経済・貿易相や国際組織の代表がオンライン方式で会議に出席。中国からは胡春華・国務院 副総理が挨拶。胡副総理は、中国はハイレベルの開放と『一帯一路』共同建設を積極推進。また、より多くの国・地域とハイレベルのFTA調印を推し進め、世界各国と発展のチャンスを分かち合いたいと言及。BRICSの各部門と共に互惠・ウインウインの成果を獲得するよう推進したいと述べ、中国の積極姿勢を示した。(6/10 人民日報)
- ・外交部定例記者会見(6/9)：趙立堅・報道官によると「製造業の操業再開のペースは大幅に加速し、産業経済は安定と改善の兆し」、「中国国際貿易促進委員会(CCPIT)の最近の報告書では、調査対象の外国企業の50%以上が中国を投資の第一候補とし、中国米国商会と中国ドイツ商会は今年、米企業の83%、独企業96%が中国市場を有望視。米企業の66%、独企業の71%が中国への投資を拡大する予定だと、世界銀行公表の「中国経済概況」における中国の今後の経済見通しに対して、中国経済成長の加速を強調。(6/9 商務部)
- ・ところが足元の状況は上海のロックダウンの影響により、長江デルタ地域では日系を含む外資系企業による投資姿勢は慎重。日系では投資減9%、遅らせる5%、まだわからないが39%であった。(※有効回答数129、上海日本商工クラブ6/2発表)
- ・ゼロコロナ対策による地方財政への影響
中国全土で展開されている厳しいゼロコロナ対策。都市部でも部分的な封鎖が続いているが、今年4月から各地で常態化されているPCR検査が各地方政府の財政へ大きな影響を与えている。4月から始まった深セン、武漢、杭州、続いて6月上旬には、北京、上海、湖北、河南、山西などが2日から10日の頻度で検査実施を義務化。常態検査を実施している地域の多くは無料。1、2級都市では費用負担が可能かもしれないが、中小都市は大きな財政負担となっている。(6/8 新華社・徐光健・人民大学財政公共政策研究所教授発言)
- ・全国の1、2級都市は約16万8,000カ所の検査ポイントを必要とし、1カ所の設置費用は平均2,825万元(推計)。設置コストは約47億5,000万元。またPCR検査員の日当は500~700元と重い負担となっている。(財経新聞6月調査)

【製造業関連・関連の政策等】

- ・中国でリン鉱石の価格が急上昇。背景にはリン肥料価格の高騰に加え、リン酸鉄リチウム原料価格も上昇、直近では前年同期の2倍以上の水準となっている。リンは化学肥料や農薬のほか、車載電池の

材料ともなり、昨年からの新エネルギー車の需要拡大が価格を押し上げている。EV 開発に向けてのエネルギー材料需要過多による原料高が今後も懸念される（6/9 21 世紀経済報道）

- 2021 年度の独占禁止法が一層厳しさを見せている。①インターネット・プラットフォーム事業者に対する厳しい処分、②医薬品分野でのカルテルや市場支配的地位濫用の摘発等、独占禁止法の初の改正に向けた取り組みを進めたこと等を報告。直近例では、インターネット・プラットフォーム事業者が出店者に対して他のプラットフォームでの営業を禁止する行為が独禁法に違反するとして、2021 年 4 月にアリババ（行政制裁金約 182 億元）、同年 10 月に美团（同約 34 億元）を処分した例がある。（6/8 中国独占禁止法執行年度報告）

【中国・デジタル産業事情】

中国では、今後 10 年間の重点産業の一つにデジタル産業がある。デジタル産業と一口に言っても広範囲で、ビッグデータ・IOT・ブロックチェーン・クラウドコンピューティング・AR/VR・人工知能等、幅広い。日本ではまだまだ馴染みの浅い AR/VR の中国事情。実は 2021 年 3 月の『第 14 次 5 ヶ年計画』にも掲げられており、2035 年迄に明確に AR/VR をデジタル経済における重点産業に育て上げると明言。国の後押しと莫大な予算を投じ、開発が進められている。

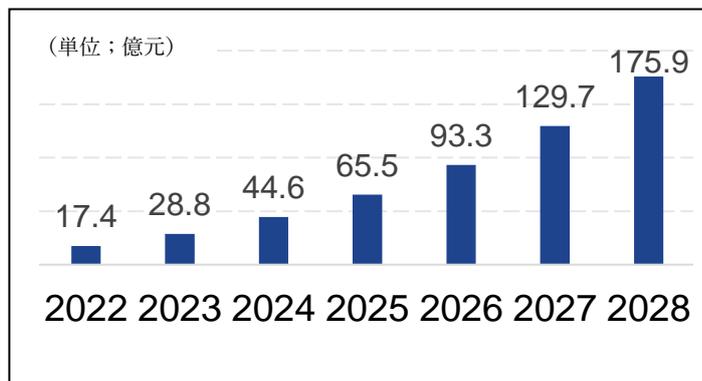
◆メタバース

メタバース（Metaverse）は英語の Meta（超越）と Verse（宇宙）を組み合わせた造語。メタバースの概念は最初、「スノー・クラッシュ」という SF 小説からで、「宇宙を超える」という概念での、現実世界と並行した人造空間を指す。AR、VR、5G、クラウドコンピューティングなどの技術の成熟度の向上に伴い、メタバースが少しずつ現実化そして実用化となる可能性は大きい。杭州の中国系大手シルクメーカーでは、シルクスカーフのデザインから VR でそのデザインがバーチャルとして浮かび上がり、リアルな景色の中に自分がいるようなユニークな商品が製品化されている。

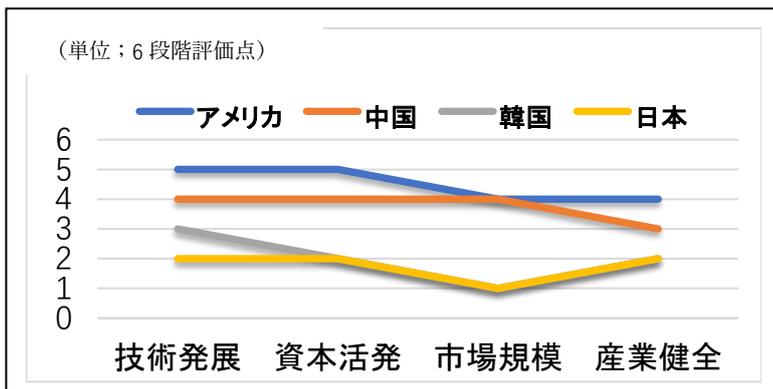
◆世界 AR/VR 市場規模予測

グローバル AR/VR 市場は急速に拡大。2021 年 6 月、Facebook は「AR/VR:新しい次元への接続」をテーマにした「Hello Future」と題するレポートを公表した。世界の AR/VR への支出は 2020 年-2024 年に 6 倍増加すると予測。2023 年までに、75%のビジネスリーダーが AR/VR を使用するようになると見込んでいる。

（*Angellist, Forbes, Statista, Citrus Bits, 中国信通院データより FNA 調査部が作成）



◆主要国の開発状況と中国



全世界のメタバースの発展はまだ初期段階。総合力ではアメリカが優勢。追隨する中国は国家重点産業のため莫大な予算を投じて現在産業発展を牽引。2021年3月から、国内企業はメタバースに関する商標の登録を開始した。2021年7月迄の中国におけるメタバース関連商標の登録件数は50件以下。2021年8月に、その申請件数が初めて50件を突破。2021年9月、アリババ、中青宝などの会社が

参入したことでメタバースの商標申請件数は急増加し、11月には683件のピークに達した。(※Angellist, Forbes, Statista, Citrus Bits, 中国信通院データよりFNA調査部が作成)

【トピックス】

1：中ロ協力を再確認

習近平・国家主席はプーチン・ロシア大統領と電話会談を行った(6/15)。電話会談では世界的な動揺・変革を前に、中ロ関係の良好な発展維持と、両国の経済・貿易協力を確認した他、両国の戦略的連携を緊密なものとしていくことが強調され、中ロ協力を再確認するものとなった。

(6/16 人民日報)

2：止まらない円安

5月からの円安は6月も加速。6/8、日銀・黒田総裁が、英報道機関が主催するイベントで“金融緩和を継続する”考えを示すと、一気に円安が進み、6/9には1ドル134円台半ばに。翌6/9、人民元も1元JPY20.12と、2015年8月以来6年19か月振りに20円を超える元高円安水準となった。

3：中国航空産業・神舟14号発射成功

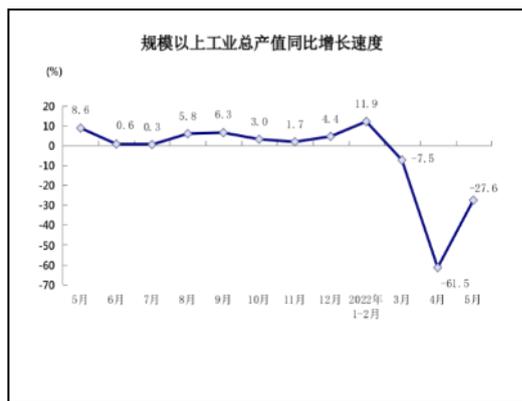
6/5、10時44分に、3名の宇宙飛行士が乗り組む神舟14号が無事に発射、宇宙軌道に乗った。中国では10年間で第9回目のロケット打ち上げとなるが有人による打ち上げは今回が初。また有人ロケットを自国で開発しているのは中国のみで、世界からも非常に注目されていた。

4：上海(金山区)・中国石油化学工場爆発事故

6/18 上海南部の金山区にある中国大手中国石化工場で爆発事故が起こり、1名が死亡する惨事となった。原因はエチレングリコール装置、そしてその保管環境と見られており、工場内の安全管理や材料管理等、化学品工場内環境調査と安全強化活動が近郊化学品工場及び各研究所で展開されている。金山区も例外なくロックダウンされており、封鎖解除後の工場稼働には実質的な装置の調整、環境の再構築、保全の見直し等が目下大きな課題となっている。

5：2か月に及ぶ上海ロックダウン、6月1日に一気に解除。

5月上旬には6月初旬から中下旬での段階的な解除と発表されていた為、6月1日の解除には市民の殆どが半信半疑だったが、予想に反して一斉に解除。72時間以内のPCRは義務付けられた



(* 国家统计局上海市统计数据)

ものの、人も車両の通行も出入りが可能となった。封鎖長期化の心積もりをしていた市民は、嬉しさのあまり深夜 0 時にマンションの門で花火を上げたり、一斉に自転車や車で飛び出していく様子も。

人々の感情とは裏腹に、上海の経済には深い傷が。国家统计局が発表した上海市の 5 月の工業生産額は 2,341.24 億元。封鎖管理による生産開始の成果もあり、4 月の底は脱したが、それでも同月前年比では 27.6% 減。小売売上高は前年同月比 36.5% 減、1-5 月の小売売上は前年同期比 18.7% 減の 6,047 億元 (6/18 上海証券報)。飲食店はまだ店内での飲食が禁止されている状態で、7 月末までの禁止が続けば一層深刻となる。

◆ 中国全土でゼロコロナ対策引き続き継続

最近都市封鎖が解除された上海の他に、深センや北京でも依然としてゼロコロナ対策は継続中。地下鉄や公共交通機関の利用や、ビルやショッピングモールの入場には 72 時間の PCR 義務付けが常態化している。杭州での世界アジア大会のような世界規模のイベント中止の他、地域での展示会等も各地で開催延期や中止が相次ぎ、製造業等の基幹産業の他、小売店や飲食業、旅行業等のサービス業にもその影響は広がってきている。

【注目エリア・浙江日中（平湖）産業合作園】

上海から若干西南、高速鉄道で約 15 分、車でも 1 時間強の距離にある浙江省平湖。隣は上海金山区に隣接するほどの近さ。日系企業からも人気の平湖経済技術開発区をご紹介します。

1996 年設立。優良企業の集積と開発区の総合クオリティーが認められ 2013 年に国家級経済技術開発区に昇格。2014 年には国内で最も人気ある日系産業開発区に選ばれる。現在は日系企業約 130 社が集積。うち独資投資は約 70 社（うち日本電産グループ企業 15 社）、特に日本電産グループは平湖を中国最大の足場に据えている。

2020 年以降には世界トップ企業・DMG 森精機、日本電産モーターの新規投資（2 億ドル）、ツガミ 100% 投資による中津精密工作機械プロジェクト等、日系ビッグプロジェクトが続々平湖に。今年には日本電産マシンツールプロジェクト、日本電産自動車馬達 E-Axle フラッグシップ工場プロジェクトが進行中。また開発区と JFE 商事が再提携し車載モーターコア事業を本格展開する。そのうちの日本電産自動車馬達 E-Axle フラッグシップ工場はトラクションモーター関連では中国で 5 番目、E-Axle の組み立て工場としては中国で 4 番目の工場。E-Axle の組立だけでなく、日本電産グループの部品事業も集約した EV 専用一貫工場を目指し、生産能力はフル稼働時で年産 100 万台。

そして注目は長城汽車平湖工場。研究所と生産拠点を構える。今年 6 月に稼働開始した新エネルギー車生産は、IT と自動化を駆使した最新製造ラインで、平均 198 秒/台の生産力。今年には生産高 50 億元を目指す。

開発区の質の高さはハード面だけではなく、開発区担当者の親身なケアも選ばれる理由の一つ。日頃からのコミュニケーションを大切に、変わりやすいゼロコロナ対策下での工場稼働や急な電力調整にも即対応。国内でも安心できる開発区の一つ。



【イベントセミナー】

- 1：河南省鄭州 9月以降に予定変更 (※1)
- 2：FBC 深圳 8月15日～18日(延期) 会場：深圳国際会展中心(※2)
- 3：FBC 南海 9月27日～28日(延期) 会場：佛山南海国際会展中心(※1)
- 4：FBC 上海 12月15日～16日(延期) 会場：上海マート(※2)

* (公財) 大阪産業局上海代表処は FBC ものづくり商談会の共催団体になっています。関西広域連合域内の企業は大阪産業局上海代表処を通じて申込みいただくと、(※1) は参加費・出展料無料、(※2) は特別出展割引が適用されます。

~~~~~

6月の上海は日本と同じように梅雨。今年は特に暑く、35度超の日が続きます。中国全土、暑くてもまだマスク着用が必要な状態で、水分補給もうっかりしがち。日本でも6月は梅雨寒の日もあるかもしれませんね。体調管理にはどうぞお気をつけて。

大阪産業局上海代表処 中国(上海)ビジネスサポート  
ファクトリーネットワークチャイナ (工場網信息科技有限公司)

上海市長寧区延安西路2201号 上海国際貿易中心2階268室